



清水小だより

清水小宣言 「さわやかなあいさつをかわします」「進んで人のために働きます」「友だちを大切にします」

いずみの里プランに向けて

2月13日(木)に、学校図書館で「いずみの里プラン」の学校説明会を実施しました。30名あまりの保護者の皆様と、学校運営協議会委員長の小澤徹也さん、PTA会長の須田安里さんにご出席いただきました。最初は皆さん不安も多く、緊張した雰囲気の中で始まった会でしたが、次第に笑顔が交わされるようになり、とても充実した時間を過ごすことができました。

最初に私(校長)からいずみの里プランを取り入れる背景や経緯、具体的なプランの詳細に加えアンケートで寄せられた質問への回答を説明しました。その後、参加された方からのご意見や質問をもとに説明の補足や検討を行いました。その内容は、今現在学校で検討を重ねていたり、今後の学校運営で参考になったりする建設的なものばかりでした。一例を述べると、教科担任制になることで、成績の付け方にチェックがはたらきにくくなったり、教科間のでこぼこがあったりすることについて話題になりました。このことは、学校でも教科担任制を進めるための重要な観点と考えていて、教科部会を設けたり、中学校の先生にアドバイスをもらったりする研修を行うなど工夫をしていきます。

また、説明を聞いたあと「いずみの里プランのよさは理解できたが、(来年は教員の数など体制がとれるという説明だったが)それ以降はどうなるのか、毎年変わることがないようにしてほしい。」という意見が複数出されました。このことについては、1月下旬に、静岡県教育委員会より県内6校の小中学校が「チーム担任制」の研究校に指定され、清水小もその内の1校になりました。令和7年度については、県教委、町教委の支援を受けながら「いずみの里プラン」の充実を図ります。なお、小澤委員長から「教員は人事異動で代わるが、運営協議会は長い視点で学校運営に関わることができるので、持続可能な仕組みになるように学校と連携していく。」という大変心強い言葉をいただきました。

この会議の話題や、アンケートで寄せられた質問についての回答を別添します。十分に説明を尽くしたとは言えませんが、お読み取りください。なお、給食の開始時刻については、前回お知らせした12時30分から12時20分と10分早めるように調整しています。毎日の昼休みを十分に確保するために下校時刻は前回と変更ありません。このことを含めた、詳細な日課については、令和7年度年間計画と一緒に3月上旬に配信します。

「いずみの里プラン」は何よりも子供たちにとって、学校生活が楽しく充実するものになるための取り組みです。様々な課題に柔軟に対応しながら、学校、関係機関、学校運営協議会、地域・保護者の皆さんが連携し、知恵を出し合いながら、創りあげていきたいと考えています。

校長 武藤 剛

清水小学校「いずみの里プラン」 Q&A集

御質問・御意見など	学校が考えていること
<日課などについて>	
<p>どうして授業時間が短縮するのでしょうか？</p>	<p>1単位の時間は短くなりますが、授業のコマ数は増えます。従来よりもゆとりをもって学習を進められるため、学習内容定着の充実を図れます。必要に応じて、ゆうすいタイム(モジュール)と組み合わせた60分授業を行うことも可能です。集中力の高い午前、5時間授業を行うことで、より学力の定着につながると考えています。</p>
<p>中休み、昼休みは今まで通りあるのでしょうか？</p>	<p>中休みは15分間(現状20分間)、昼休みは30分間(現状25分間)を予定しています。</p>
<p>登校時刻が早くなることで、睡眠時間の減少を懸念しています。</p>	<p>登校時刻は変更ありませんが、始業時刻が5分早まる予定です。睡眠時間については、子供たちへの調査などから、少なくなっている現状があることも把握しております。学校でも適切な睡眠時間を取ることを大切に、繰り返し伝えていきます。</p>
<p>給食の開始時刻が遅くなって、お腹が空いてしまいませんか。</p>	<p>いただいたご意見等から、日課を再検討し、給食開始を12時20分からとしました。本年度より10分間、給食開始が遅くなります。空腹感には個人差もあるかと思しますので、登校前に朝食をしっかりとるなどして調整をお願いします。なお、先進校で、12時30分を給食開始とした学校では、子供たちが生活リズムになれるにつれ、残食が減るなどの効果が見られるようです。</p>
<p>ゆうすいタイムでは何をやるのですか。短くなる授業時間をどのような形で補うのか教えてください。</p>	<p>ゆうすいタイムは、新出漢字の学習や計算練習など基礎学力の定着を主なねらいとし、場合によっては、6時間目と合わせた60分授業として、時間を多く必要とする理科の実験や総合の調べ学習の時間に充てることも想定しています。授業時間が40分間となることについては、1コマ当たりの時間は短くなりますが、授業のコマ数は増え、従来よりも、ゆとりをもって学習を進められるため、学習内容定着の充実を図ることができると考えています。</p>
<p>中学に行ったら50分授業になりますが、40分に慣れてしまうと、中学へ行ってから授業が長すぎて集中が切れてしまわないか心配です。</p>	<p>必要に応じて、ゆうすいタイムと1授業を組み合わせ、60分授業にすることも可能です。学習内容によっては、60分で授業を行うなどして対策してきます。</p>
<担当教員の配置や役割について>	
<p>学年担当では、学年主任みたいなポジションはあるのでしょうか？</p>	<p>学年主任は決めます。相談がある時にはその時の学級担当だけでなく、学年主任はもちろん、学年担当内で相談したい教員に相談してください。養護教諭や管理職などへの相談も歓迎します。</p>

学年担当になる場合、各学年ごとに何名の先生が配置されますか？	各学年に4名(学級数+1)の配置が理想と考えますが、次年度の教員の配置人数を勘案し、学年配当を検討していきます。
チーム担任制では、どのように担任(担当者)が代わっていくのですか。	通常、二週間程度での交代を想定していますが、学年裁量で柔軟に考えていきます。これは、子どもの変化に気付いて適切な声かけをしたり、継続して指導が必要な場合に指導を繰り返したりするためには、最低でも一週間は必要だと考えるからです。また、担任交代のタイミングは、週明けの月曜日は避け、火曜日からにするなど配慮していきます。なお、保護者には、C4thなどを通して、予め当面の担当者をお伝えいたします。
年度が変わる際、環境の変化が苦手な児童にとって、前担任からの支援や配慮の方法の引き継ぎが重要になってくるかと思いますが、始業式までに学年担任全員が学年の児童全体について把握するには、3月中に指導計画や面談の記録を読み合わせる時間があるのでしょうか。	学年担当の教員が決まり次第、その学年にいる児童について把握するための情報収集(前担任からの引き継ぎ、個別の指導計画や面談記録の確認など)は、これまで同様、丁寧に行い、新年度を迎えます。新年度に入ってからでも、必要に応じて、保護者の方とコミュニケーションを積極的にとりながら、児童の生活・学習環境に配慮していきます。
学級懇談会や個人面談などは毎回違う先生になる可能性があるのでしょうか。	授業参観後の懇談会(年2回の予定)は学年裁量により、学級で行ったり、学年で行ったりする予定です。個人面談は、その時の学級担当が行うことを想定しています。そのため、懇談や面談時の担当が異なることは起こり得ますが、懇談会や個別面談の前には、事前の学年部での打合せを十分に行い、学級間で大きな差が生まれないようにします。
いじめや些細な心の変化など、たくさんの先生が見ることで、見逃しが多くなりませんか。	放課後、学年担当がその日の子供たちの様子を共有する時間を、これまで以上に確実にもつようにします。複数の大人の目で子供たちを見取することで、子供たちの些細な変化を見逃さないようにしていきます。
子ども同士のトラブルに対しては、どの先生が指導にあたるのですか	目の前で発生したトラブルに対しては、そのトラブルを発見した教員、主にはその学級をその日担当している教員か、授業の指導に当たっている教員になりますが、責任をもって対応し、解決を目指して指導します。トラブルの解決が長引いたり継続的な指導が必要になったりする場合は、主として指導にあたる教員を学年で決めて、その教員が継続して人間関係の修復に向けて対応に当たっていきます。
チーム担任制になると、責任の所在が分からなくなるというデメリットもあるではありませんか。	教員の担当者意識が低いと、子どもたちに指導すべき場面でも「他の教員がやるからよい」と、指導を怠る無責任さが生まれることも考えられます。日頃から担当者全員で責任をもつことや、目の前で起きた問題を放置しないことなどを確認し、意識化を図っていきます。
卒業式の呼名はどの先生が行うのですか。	1年間の様子を見て、学年部で検討して対応を決めます。
<学習指導について>	

<p>教科担任制でその教科を教える事になる先生は、中学校のように、その分野を専門的に学んだ方になるのですか？</p>	<p>小学校の教員ですので、全ての教科を指導する力量があることが前提です。教員のモチ味や特性も考慮しつつ、学年の教員構成に合わせて担当教科を分担します。</p>
<p>教科担任制になっても、お休みを取る先生がいる場合には、担当する全てのクラスに影響があるのは避けられません。そう考えると、学校では、タブレットなども有効に使って、子供たちが自分で学ぶことができる力をつけていくことが大切になっていくと思います。</p>	<p>とても大切な視点です。学校も一律一斉指導型の学びからの転換を迫られており、子供を主語にして「子供が、学び方を学ぶ」という授業改善が急務です。いわゆる「個別最適化された学び」と「協働的な学び」の実現を目指しながら、常に授業改善を試みる教員集団でありたいと考えます。</p>
<p>図工や体育など片付けが必要な科目の場合、実質の時間が減りません。合計時間数はクリアできても、毎時間数が減ることによって少ない時間での効率的な教えはできますか。</p>	<p>図工や体育（水泳の時期など）は、2時間続きで時間を確保するなどして、時間を十分に確保できるように時間割を柔軟に変更していきます。また、授業改善を心がけ、1コマ40分間を効率的に使った授業計画を立てていきます。</p>
<p>成績や所見はどの先生が責任をもって行うのですか。</p>	<p>教科については、その教科の指導を担当する教員が、単元毎に評価をし、期末に取りまとめて成績を作成していきます。通知票の所見については、お子さんに対する担当者を決め、その担当者が学年の全担当者からの評価を取りまとめて、所見案を作成します。その所見案を学年の教員で検討していきます。</p>
<p>教科担任制の場合、1人の同じ児童に対する成績に、ばらつきが生じる可能性はないですか。</p>	<p>ご指摘の点は学校でも検討課題です。教員には、教科指導力や評価力、そして学習の進捗管理が、これまで以上に求められるます。来年度は教科部会を充実させるなどして研修に努めていきます。また、成績をつける際には、学年部内での情報共有を大切にしていきます。</p>
<p>宿題のチェックはどの教員が行うのですか。</p>	<p>毎日の家庭学習（宿題）については、その週を担当した教員が確認や指導を行います。教科ごとに出す宿題は、教科担任が授業の中で確認します。</p>
<p><その他></p>	
<p>今回のこの案は清水町では清水小のみですか？</p>	<p>現時点において清水町内では清水小のみですが、県内外の他市町でもチーム担任制を取り入れている学校が増えてきています。令和7年度には、清水小を含め、県内6校の小中学校でチーム担任制の研究が実施されます。これからは、各学校がより特色をもった教育活動を展開していく時代になっていくと思われます。</p>
<p>どのような経緯で、このプランを実施することになったのですか。</p>	<p>令和6年9月に県教育委員会より、チーム担任制研究参加の意向調査が届き、検討を開始しました。11月に校長が（2月には研修集主任も視察）、兵庫県の導入校（清水小と同規模）視察を行い、町教育委員会などと相談を重ねながら、プランを作成。12月に職員への説明会を実施、1月には保護者に「いずみの里プラン」として案内しました。2月には、研究指定校に採択が決定し、今回の保護者説明会の実施に至っています。</p>
<p>この「いずみの里プラン」の子供たちの学びや成長への効果は、どのようにして検証していく予定ですか。</p>	<p>令和7年度は、県教育委員会の研究指定を受けるため、年に2回の定量的・定性的な評価を実施し、学識経験者を含む検討委員会（7月、11月）に報告する予定になっています。その中で、成果等をもとに効果検証がなされ、このプランの有効性を明らかにしていきます。</p>

<p>チーム担任制で、学級担任は固定化されないことはわかりました。その学級内の子供たちのメンバーは固定化されますか。</p>	<p>子供のメンバーはこれまで通り、1年間固定化されます。クラス替えが頻繁に行われることは、子供の成長にとっても不安定要素となりますし、学校運営上も管理が困難になるためです。</p>
<p>この「いずみの里プラン」は、恒久的な変更ですか。それとも、一時的な変更ですか。そして、その持続可能性については、どう考えますか。</p>	<p>令和7年度は県教育委員会の指定も受け、職員配置等で支援をいただける予定です。今後、追加的な職員数が減ってしまっても、清水小では児童数が今後も安定推移の見込で、職員数も一定数確保が可能です。その年々の職員配置数の中で、工夫しながら、よりよい形を考えていきます。また人事異動で教職員は変わっていきますが、委員の継続性が担保されている学校運営協議会からも、バックアップいただけることになっています。</p>